

環境保全に配慮した資源循環利用の促進

(林業振興課)

間伐材の有効活用に向けた取り組み（森林資源循環利用促進事業）

県では、やまがた緑環境税の創設時に、林内に放置され、利用されていない間伐材の有効利用を図るため「森林資源循環利用促進事業」として、間伐材の搬出を支援しています。

平成19年度以前は、間伐材の利用といえば、土木用資材としての利用することが一般的であり利用も限定的なものでした。そこで、間伐材を大量に利用できる県外の合板工場への搬出のために支援を始めました。8年目となり、間伐材の搬出先は、これまでの土木用資材や合板への利用だけでなく、集成材、製紙用チップ、バイオマス燃料用のチップ及びペレットなど用途を拡大し、搬出量も順調に増加し、間伐材が有効に活用されるようになってきています。

今後も、搬出間伐の一層の効率化をはかるため搬出コストの低減を図りながら、効果的な支援を行っていきたいと考えています。

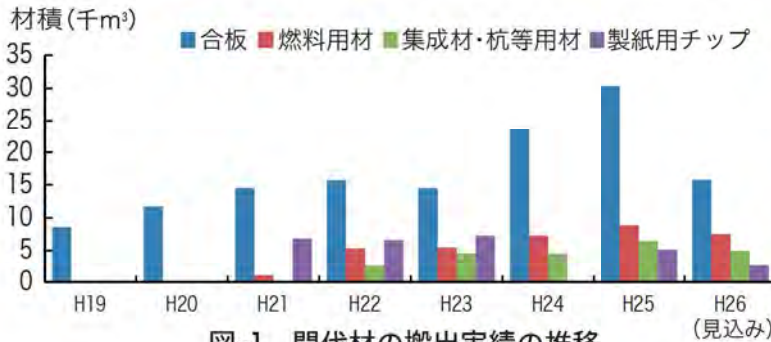


図-1. 間伐材の搬出実績の推移

資源活用によるナラ枯れ被害の拡大防止の取り組み（広葉樹林健全化促進事業）

近年、生活エネルギーの主役が化石燃料や電気などになり、伐採されずに放置される里山の広葉樹林が増加してきました。その結果、里山の広葉樹林では高齢化したナラ類の木が増え、カシノナガキクイムシが媒介するナラ枯れ被害の急速な拡大が問題となりました。

ナラ枯れ被害を受けた森林は、倒木による二次被害の危険性が高まるなど、県民の生活へ悪影響を及ぼす恐れがあります。そこで、ナラ枯れ被害の拡大防止と森林資源の有効活用を図るため、ナラ枯れ被害を受けた森林を伐採して森林の若返りを図ると共に、搬出利用するための支援を平成22年度から開始しました。支援を開始して5年目となり、これまでに約260haの事業を実施してきました。伐採跡地では、若い木々が成長しており、広葉樹林の再生も進んでいます。今後も資源の有効活用を図りながら、ナラ枯れ被害の拡大防止を図っていきたいと考えています。

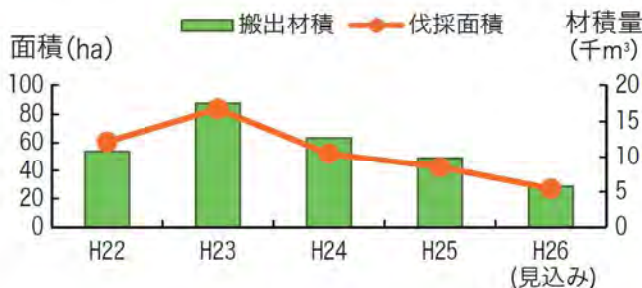


図-2. 伐採面積と搬出実績の推移

県民参加の森づくり活動の推進

村山地域における森づくり活動の取り組み (村山総合支庁)

(1) NPOや地域のボランティア団体などによる森づくり活動 (みどり環境公募事業)

日東ベスト(株)の森 in 西川

日東ベストは平成24年度から「安全な水の確保のため」西川町沼山地区で森づくり活動に取組み、平成26年度は5年の協定の折り返しの3年目となり、地元との交流も行い活動をしましたので紹介します。

- ① 5月17日 60名が参加し、沼山地区の子供たちとブナ、トチノキ、カツラ、ヤマボウシを植栽。
- ② 6月28日 広葉樹の下刈り、本道寺地区で溪流つり。
- ③ 7月26日 広葉樹の下刈り、月山湖でダムの見学。
- ④ 8月31日 県立自然博物館でブナの原生林を散策し、月山の湧水を頂く。植栽したブナも大きく成長することを期待。
- ⑤ 10月18日 キノコの植菌体験と芋煮会(地元中学校カヌー部員招待)で交流を深めました。

上流から下流まで「安全な水」を育む森づくりを地域の子供たちと一緒に、楽しい体験活動や食を取り入れ行っており、地域の皆さんからも喜ばれています。



広葉樹植栽



キノコ植菌体験

(2) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動 (みどり環境交付金事業)

山形市の取り組み

山形市植樹祭がみはらしの丘周辺市有地で、10月31日に開催され、市民約400人が参加し広葉樹12種、約500本を植栽しました。当日は、森林・林業関係者のほか、近隣小学校の緑の少年団や、保育園・幼稚園からなる緑の幼年団の子供たちが協力し小さなスコップで土を掘り、オオヤマザクラ、ヤマボウシ等を植えました。一人で6本も植えた子供もいて、晴れやかな秋の日に元気にボランティア作業に汗を流しました。

山形市植樹祭



大江町の取り組み

1歳の誕生日を迎える幼児を対象に西山杉材のフォトフレームを贈呈しました。子供の成長が、木の柔らかさの中に記録され、温かさが感じられると好評です。

また、地元中学校に大江町産西山杉の間伐材を提供し、生徒自ら設計した椅子を製作することで、地元木材とのふれあいを通じた環境学習を行いました。



木製品の普及啓発



木工体験授業

最上地域における森づくり活動の取り組み（最上総合支庁）

(1) NPOや地域のボランティア団体などによる森づくり活動（みどり環境公募事業） はちべえの森 山林資源活用開発研究所の実施状況について

新庄市のはちべえの森山林資源活用開発研究所は、平成26年度公募事業への応募をきっかけに結成された新しい団体で、その理念は「山に入り、互いに協力し、活動し、これからの里山及び山林資源の活用目的を研究する」ことです。ちなみに「はちべえ」とは、代表の方の屋号だそうです。

今年度は、活動フィールドとなる地域の里山の手入れ（植樹、下刈、間伐、散策道の整備など）を実施し、ベテラン会員の指導のもと、慣れない作業に四苦八苦しながらも、整備を無事終わりました。これらの活動の中で様々な発見があったようですが、中でも杉のご神木の傍に見つかった神社の形跡は「はちべえの森」の歴史を語る貴重な財産であり、この森のシンボルとして大切に保全していきたいとのことでした。

また、子供たちと一緒に里山を楽しむ活動として、除伐木へのキノコの植菌作業や、林内を巡る複数の散策コースを利用した『たんけんオリエンテーリング大会』などを開催したところ、子供から大人まで楽しく自然の中で過ごし、里山の良さを実感することができたそうです。

代表は、「森林整備は重労働ですが『はちべえの森』を地域の大切な財産として次の世代へ継承していきたい」と意気込んでいました。



除伐木等を利用した植菌作業



親子で林内オリエンテーリング

(2) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動（みどり環境交付金事業）

真室川町の取り組み

真室川町では、町の中心部にあり、町民の憩いの場である真室川公園において、真室川小学校の児童がナラ枯れの被害を受けた林内に、ブナの苗木を植栽する広葉樹林再生の活動を行いました。

活動に参加したのは4年生32名で、森林の機能や役割、森の手入れの必要性について学んだ後、ブナの植栽作業に移りました。用意した苗木は160本で、子供たちは先を争って苗木を手にし、先生たちに手伝ってもらいながら丁寧に植栽作業を続けていました。子供たちからは、「森林は人が生きるために大事。大切に守っていききたい」などの感想が聞かれました。



戸沢村の取り組み

戸沢村では、子どもたちの健康と安全の確保、地域材の有効活用を図るため、スクールバスの待合所を作製しました。小学校の統合によりスクールバスにより通学することとなった児童は、雨や雪の日も屋外でスクールバスを待っており、木材を使った温かみのあるバス待合所を作りたいという地元からの強い要望に応えたものです。

組立作業は、地区内の大工さんの指導のもと、地元神田地区会を中心として保護者や子供たち45名が行いました。

吹雪の中でも安心してバスを待つことができるようになり、子供たちにも保護者にも好評のようです。



県民参加の森づくり活動の推進

置賜地域における森づくり活動の取り組み（置賜総合支庁）

(1) NPOや地域のボランティア団体などによる森づくり活動（みどり環境公募事業） 「新田チェリー会」の活動状況について

新田チェリー会では、「子どもたちに受け継ぐ里山再生」の一環として、間伐材を用いたベンチ製作や動植物の環境保護学習などを行いました。

ベンチ製作では、地元飯豊町中地区の林内で間伐を行い、製材した後、地元の小中学生及びその保護者が協力しながらベンチを作製しました。完成したベンチは、地元の公共施設へ提供され、施設利用者からは大変好評を得ています。

動植物の環境保護学習では、飯豊町中地区の住民を対象に、危険な動植物の見分け方や対応方法について説明会を開催し、子どもから大人まで、真剣に聞き入っていました。



(2) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動 （みどり環境交付金事業）

米沢市の取り組み

米沢市では、「絆の森活動事業」として、山形銀行や米沢信用金庫と協働して森づくり活動を実施しています。今年も、森の子学童クラブの子どもたちも参加し、樹名板の設置や木工クラフトなどを通じて、森林の大切さや木材の良さについて学びました。

また、「里山体験事業」では、地区のコミュニティセンターや学童保育所等と連携し、森林散策や木工クラフト教室などを実施しました。



小国町の取り組み

小国町では、「白い森づくり体験事業」として、地元の小学生を対象とした間伐教室を行いました。林業機械の実演見学や、間伐・玉切りなどの作業体験を通して、間伐の必要性や森林の役割などを学びました。

また、「環境教育推進事業」では、落ち葉などの森林資源と生ごみを活用した堆肥づくりを実施し、その堆肥で生産した野菜を産地直送市場や町内保育園に供給することで、資源の循環利用に取り組みました。

